

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 住民組織の意識改革を行いながら、女性や若者が発言・活躍できる場を作る
- 広域コミュニティ組織と連携・協力しながら、自治会組織役員の負担軽減を実現する
- 単位自治会を超えた複数自治会での活動を模索する
- SNSなどを活用し、新しい情報発信のあり方を検討していく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	46%
取り組まなかった	14	54%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・隣組の再編を行い、組ごとの人数差を縮小し、組数を少なくすることで、役員選出の負担を減らした。
- ・人口減少に伴う隣組の再編を検討中である。
- ・自治会協議役員について、若者や女性の参加を求めたが、いい返事はもらえなかった。今後も諦めずに進めていきたい。
- ・地域の消防団は2班体制になっているが、各班とも過疎化・少子化等により新規団員の確保が困難なため、令和5年度を準備期間、令和6年度から1班体制として統合することとした。
- ・集落の事業について、勤めている人の負担にならないように事業をまとめて実施するようにした。
- ・地域のビジョンづくりに向けた自治会ワークショップを行い、地域内の課題とこれからについて市やコミュニティ組織を交えた話し合いを行った。
- ・毎年行っている子供から高齢者までが集う交流会について、コロナ禍のため時短開催等、規模を縮小して行うことで継続開催を維持し、幅広い年代の交流を図った。
- ・子供会育成会事業である資源回収について、少子化により育成会のみでの実施が困難となっていたことから、自治会役員が協力することで活動を維持することができた。今後も継続していきたい。
- ・地元林道の草刈りを他の自治会と共同で行った。
- ・除雪パートナーズ事業、玄関前除雪事業に取り組み、高齢者世帯の克雪対策を実施した。
- ・自治会行事や集会の案内をLINEで行い、回覧等を極力減らした。ただし、スマートフォンを持たない高齢者への対応が課題である。
- ・自治会長が「自治会だより」を毎月発行することで、住民同士の情報共有ができた。

地域課題② 住民による魅力的な事業づくり

★具体的取組の例

- 幅広い年代が参加しやすい事業の開催
- 単位自治会を超えた複数自治会での参加しやすい事業を開催する
- 生涯学習活動において、広域コミュニティ組織・地区公民館連絡協議会と連携した事業、単位自治会でできる事業のすみ分けを考えていく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	46%
取り組まなかった	14	54%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・全ての集落を対象に、子供から高齢者まで参加できるグラウンドゴルフ交流会を実施した。
- ・地区運動会は中止となったが、地区公民館連絡協議会と連携し、グラウンドゴルフ（老人クラブ）や地域の駅伝、バレーボール大会などのスポーツイベントに参加した。
- ・体育部長を中心に体育部推進員が協力し、地域運動会の代替え事業としてのレクリエーション交流事業の企画立案を行った。
- ・毎週木曜日に「上本郷サロン」として、100歳体操を行っている。
- ・地域内に湯ノ沢観光協会、アルカディア委員会、地域保全会、チョボラの会、雪下ろし協力隊など多くの組織があり、子供や高齢者を巻き込んだ様々な活動をしている。
- ・地元の美味しい水を確保するための保全清掃を実施した。
- ・子供が少なくなったため、子供会育成会の事業である春と秋の資源回収を自治会と合同で実施した。

地域課題③ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 防災拠点施設となる広域コミュニティ組織との連携の強化
- 社会福祉協議会等、他団体との協力による見守り活動や情報共有の継続と充実
- 地域の消防団や行政と連携し、有事の際には地域に住む人たちが協力しあえる仕組みづくり
- 空き家の所有者の把握と、適正管理の指導や助言

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	73%
取り組まなかった	7	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災組織について、大雨による災害に対応できるような避難誘導を考慮した班体制として整理し、来年度から実施していくこととした。
- ・市総合防災訓練において、自治会として地区住民の避難誘導訓練や班員の安否確認を行い、自主防災意識の向上を図った。
- ・倒壊している空き家について、危険防止のための応急措置として、市から網を提供していただき、自治会で網掛けを行うこととした。

地域課題④ 単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し

★具体的取組の例

- 将来を見据えた会費のあり方の検討
- 隣接する自治会との共同作業の検討
- 土地や建物の財産管理や共同作業の見直し

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	69%
取り組まなかった	8	31%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自治会組織の「決め事」の見直しを継続して行っていく。
- ・集落内の高齢化や人口減少により、これまで自治会が委託業務として請け負ってきた草刈りや雪下ろしを請けないこととし、草刈り等は集落内の共同作業のみとして地域の負担を減らした。
- ・集落の体制等を考慮して、公民館の雪囲い方法について見直しを行い、落雪の少ない箇所については一部はめ込み式に変更することで、作業の簡素化による負担軽減を図った。また、宮祭りの際に設置するのぼり旗についても簡素化することとし、来年度からは立てないこととした。
- ・コロナ禍で事業ができないため自治会費等を減額とした。
- ・公民館の老朽化した箇所を修繕するための予算を整備した。
- ・公民館の将来的な改修や修繕を計画的に行うための施設運営積立てを行った。
- ・公民館の屋根葺き替え修理を実施した（市補助基準対象外）。戸数が少ないため、個々の出資額が多く苦労している。

地域課題⑤ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織が連携した活動の実施
- 単位自治組織を広域コミュニティ組織が支援する仕組みづくり
- 単位自治組織でできることはできるだけ単位自治組織ですするという自覚を持つ場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	50%
取り組まなかった	13	50%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域ビジョンづくりに向けた自治会ワークショップの開催によって、普段の寄り合いの場とは違った多くの参加による意見交換を行うことができた。
- ・年1回秋に開催しているグラウンドゴルフ大会は、10年以上継続して行っており、地域内の交流を深めている。
- ・土着信仰として継承されている年2回の村念仏（まわり数珠）について、各戸の持回りとして実施していたが、高齢化により見直しを行い、新年度からは自治会行事として実施することとした。
- ・コロナ禍で住民参加の行事が制限される中、正月に全世帯を対象に折詰料理とお酒の配布を行った。
- ・近隣の3自治会で、抱える問題や集落のあり方・考え方、農業後継者等について話し合った。
- ・新型コロナ対策のため実施できなかった地域運動会の代替え事業としてレクリエーション交流会を実施し、世代間の交流を図った。
- ・自治会の作業後に意見交換会を実施した。
- ・自治会全体ではないが、60～70代の女性達がひと月に2～3回程度、自主的に声を掛け合って健康体操に取り組んでいる。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・高齢化に伴い、地域活動に参加しづらくなっている。体調や体力的に難しい人が活動に参加できない場合の対応をどうしていくかが課題である。
- ・高齢化が進んでいるため、自治会行事や集落内草刈り、公民館雪囲い等の共同作業の実施に支障をきたしている。
- ・集落内草刈り等の共同作業について、高齢化により10年ほどで実施できなくなるのではという不安がある。また、高齢者世帯の除雪問題があるが、自治会としての対策はまだ行っていない。将来的には取り組みが必要なものもあるが、買い物などまだ何とかできている。
- ・人口減少、高齢化による事業の見直しが必要。役員を2つ以上兼ねている人が多い。
- ・人口減少、高齢化により世代間交流や自治会運営のための人材確保が難しくなっている。役員のなり手不足が今後の課題。子供もいないため将来の役員になる人もいない。なり手不足により自治会の存続が心配である。
- ・人口減少、高齢化、荒れる畑。どのようにしたら良いものか思案中である。
- ・40代、50代が少ない自治会のため、役員の継続性が問題である。70歳以上の方の2度目、3度目の役員就任の可能性があり、また、地域が広いので、車を持たない一人暮らし高齢者の隣組長は困難である。
- ・高齢化が進み、防災等の住民同士の助け合いが困難になってきている。
- ・この地区を離れ、移住する人が多くなった。
- ・自治会行事への積極的な参加意識が希薄化しており、自治会への無関心につながっている。
- ・一人暮らし世帯の家屋や空き家が大分傷んでいるので対応が必要である。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・空き家が多く、問題があるたびに所有者に連絡対応をしているが、連絡先等不明なものについては市に相談しながら対応している。
- ・デジタル化の推進に取り組んでいければと思っている。
- ・地域に重要な生活用水路があるが、50年以上の年数が経過しているため、修繕等の整備について計画的に進めることとした。自治会役員は年度での交代が多いため、実行委員会を立ち上げることにした。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・今後考えられる限界集落への自治体による対応として、どのようなことを計画しているのか知りたい。
- ・現在自治会内の小学生は2人のみで子供会育成会の活動が困難な状況にある。将来的にも子供が増えることは期待できず、「明るい未来」など到底来ないように思えて非常に心配である。
- ・新型コロナ感染症対策のため、計画した事業が実施できず、連帯感の構築が難しい。
- ・役員も高齢であることから、役員の仕事を増やさないで欲しい。
- ・自治会の方向性として、東岩本地区全体として考えていく時期にきているのではと感じている。

地域課題① 住民理解の促進と単位自治組織への支援

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の活動意義と活動内容等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 単位自治組織で実施が困難となっている活動・研修への協力と支援
- 子どもの頃から地域固有の自然や歴史、文化、伝統、産業などへの理解を促すような機会づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・東北公益文科大学、株式会社プロトソリューションと連携し、朝日地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を運営し、地域の情報発信を行った。
- ・敬老会や運動会について、昼食前に終了し、テイクアウトとすることで、自治会の人的協力が不要になり、自治会経費の削減につながった。また、実行委員の労力負担も減り、午前中開催であることや昼食持参が不要となったことで参加者も気軽に参加できるようになった。
- ・3 集落における集落協定中山間事業として開催するグラウンドゴルフ大会への事務協力をを行い、事業の円滑運営を支援した。
- ・事業への参加呼びかけについて、音声告知放送をきめ細やかに活用して行った。
- ・Facebook を活用し、事業の周知・報告を行った。

地域課題② 人材の確保に向けた検討

★具体的取組の例

- 人と人とのつながりができるような事業や研修会の実施
- 地元講師の発掘と、講師を活かした事業の実施
- 若い世代の声を地域に活かすため、性別や年代を超えた語り合える場を作る
- 生涯学習推進員を巻き込み、単位自治組織と広域コミュニティ組織の連携を強める事業を実施する
- 意欲ある生涯学習推進員の掘り起こしを進め、研修の充実を図る

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域部を事務局とし、東北公益文科大学地域共創コーディネーターと連携しながら若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト「WaGeSho」の企画運営を行った。
- ・幅広い年齢層から参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた「地域語り合い」では、職員や地区公民館連絡協議会役員がテーブルファシリテーターを経験することで、地域の人材育成を図った。
- ・生涯学習推進員の選出を従来自治会輪番制としていたが、やる気のある若手にお願いすることとした。
- ・地域の魅力を発信する「交流の里おおあみ」の事業として、六十里越街道トレッキング（5回）、「月山筍収穫体験」等を企画し、地域の人材育成と地域外交流を促進した。

地域課題③ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 朝日地域自治振興会連絡協議会（広域コミュニティ組織の連合組織）が主体となって事業を実施できるような仕組みづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えて集える場づくり
- 地域が学校に関わるコミュニティスクールへの協力・支援
- 地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・5 地区で開催した「地域語り合い」では、中学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた。
- ・朝日中学校と連携した「週末塾」を開催することで、高校受験に向けた学びの機会の充実を図った。
- ・地域ビジョン策定に向けて、自治会ごとのワークショップ（2 集落）や策定委員会（2 回）を開催した。人口について、地域の近未来を数値化することにより、我が事として受け止めることができたように思う。その場で意見を出し合うだけでなく、事前に宿題を課し、地域課題シート等に記入してもらうことで、積極的な意見交換の場をつくることができた。また、各自治会からの策定委員（2 名以上）には、女性を必ず選出してもらうようにした。
- ・地元の育成会と連携した地域の伝統芸能「大綱子ども大黒舞」を継承する活動の一環として、「あさひ産業文化まつり」でステージ発表を行った。

地域課題④ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 単位自治組織と情報を共有する仕組みづくり
- 自主防災会と連携を強化し、災害の避難訓練や研修会の実施
- 空き家の実態把握と適正管理の指導や助言
- 社会福祉協議会等他団体との協力による高齢者や支援が必要な人に対する見守り活動等の支援
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・市総合防災訓練に向けた練習を兼ねて、地域と連携しながら避難所開設訓練を行った。
- ・慶応義塾大学大学院生の研究事業と連携し、初心者向けに全 8 回のスマホ教室を開催した。
- ・社会福祉協議会の助成制度を活用し、おだがいさま除雪支援活動を実施し、8 名の支援者により、10 世帯の玄関前除雪を行った。（朝日中央）
- ・市補助金を活用し、地域で支え合う玄関前除雪支援事業を実施し、自力除雪が困難な高齢者世帯の玄関前除雪を行うことで、安心して過ごせる地域づくりを推進した。（朝日南部・東部）

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若い世代の活動が停滞しており、女性が地域で活躍できる居場所づくりが必要である。
- ・地域の伝統文化の継承が、人材確保ができない等により難しくなっている。
- ・運転免許返納後の移手段について、公共交通路線のバス停まで遠い地域に地域内交通を導入するための支援ができないか。
- ・人材不足により、自治会の役員業務について、自治振興会でサポートするような仕組みを必要とする地域がある。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・「地域語り合い」の実施による人材育成
- ・地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を有効活用した地域情報の提供
- ・除雪ボランティア事業について、外部のマンパワーに頼るだけでなく、地域内でのボランティア意識を覚醒させ、地域内でのボランティアの仕組が構築できないか。
- ・世帯分離が多く、独居高齢者、日中独居高齢者世帯が増しているため、緩やかな見守りのネットワークの構築が急務と思われる。
- ・若い世代から入ってもらい、企画運営できるような事業を組めないか模索していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・豪雪地帯だからこそその予算を考えていただきたい。除雪ボランティアを有償にする仕組みとした場合でも、補助金があると仕組みを作りやすい。